

令和3年度（第3回）山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和3年10月21日（木）9時30分
場 所	山鹿市役所（4階401会議室）
出席者	早田市長 堀田教育長 教育委員：野中委員、上田委員、野口委員、立山委員 市職員：大林総務部長、渡邊教育部長、園田教育部次長、村上首席教育審議員、佐藤教育総務課長、田崎学校教育指導室長、山西学校教育指導室審議員、西浦学校教育指導室審議員、西島学校施設課長兼学校規模適正化推進室長、井上社会教育課長、栗原社会体育課長、豊田子ども課長、中満教育総務課長補佐、堀社会教育課長補佐、淵上学校施設課長補佐、古川社会体育課長補佐、原口子ども課長補佐、徳永教育総務課総務企画係長、江崎主事
傍聴者	なし

- 1 開 会
- 2 議 題
  - 山鹿市教育大綱の策定について
  - ①E S Dについて
  - ②教育大綱（案）について
- 3 その他
  - (1)次回開催について
  - (2)その他
- 4 閉 会

発言者	発言内容
徳永教育総務課総務企画係長	<p>令和3年度第3回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「山鹿市教育大綱の策定について」となっております。</p> <p>この議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開といたします。</p> <p>また、会議の時間は、市長の公務もごございますので、午前10時30分には終了したいと思いますので、ご協力の程よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは議題に入ります。早田市長に会議の議長をお願いします。</p>
早田市長	<p>本日は、教育委員の皆さま方におかれましては、お忙しい中にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、本日は第3回目の総合教育会議となります。</p> <p>これまでの委員の皆様から貴重なご意見をいただき、私の思いもしっかり入れたところで大綱案を作成いたしました。この大綱案を本日、決定できるようにと考えております。皆様方からのご意見を伺いながら、最終決定をしたいと思いますので、本日もよろしくご願ひいたします。</p> <p>それでは、議題の項目①から②について、続けて説明をお願いして、その後に、委員の皆様からご意見をいただきたいと思ひます。</p> <p>事務局より説明をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>教育総務課です。</p> <p>資料の1ページ「持続可能な開発のための教育（ESD）」というカラー刷りの資料をお願いします。</p> <p>本件につきましては、前回の会議において、SDGsの説明の中で少し触れさせていただきましたが、ESDをしっかり理解しておかなければSDGsにつながっていかない、もっと学んでおいたほうが良いとのご意見をいただきましたので、その概要資料を配布させていただいています。</p> <p>まず、「ESDとは?」、冒頭に掲載のとおり、「持続可能な開発のための教育」とされております。現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育とされています。</p> <p>また、ESDの基本的な考え方は、ご覧のとおり、環境、経済、社会の統合的な発展を目指し、ご覧の項目で構成されています。</p> <p>次に、「ESDとSDGsの関係」につきましては、前回ご説明のとおり2ページにかけて、持続可能な開発目標SDGsは「誰一人取り残さない」社会実現を目指して、17の目標及び169のターゲットにより構成され、ESDは、このうち、目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲットに位置付けられています。</p> <p>一方で、ESDは、ターゲットの一つとしての位置付けだけでなく、SDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが国連総会で確認され、持続可能</p>

な開発目標を達成するために質の高い教育の実現に貢献するものとされています。E S Dは、SDG s 17のすべての目標実現の鍵を握るものでもあります。

次に、3ページの中段、「学校教育におけるE S Dの位置付け」として、中央教育審議会の答申に、「E S Dは次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である」とされ、学習指導要領等においては、「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられております。また、E S Dを通じて国際理解教育も行うこととされています。

次に、「E S Dで目指すこと」につきましては、持続可能な社会づくりの構成概念として、1 多様性、2 相互性、3 有限性、4 公平性、5 連携性、6 責任制の6つの視点を軸に教員・生徒が持続可能な社会づくりに関わる課題を見出すこととされています。

以下、記載のとおりでございます。本来は、前回の会議の際にSDG sと合わせて資料配布し、ご説明すべきだったことをお詫び申し上げ、E S Dについて概略の説明とさせていただきます。

次に、教育大綱案についてご説明いたします。

第2回の総合教育会議において、教育大綱の素案について、委員の皆様との意見交換を行い、様々なご意見をいただいたところでございます。そのご意見を基に、教育部内での協議を重ね、市長のご意見もいただきながら、教育大綱（案）を整理させていただきました。

その結果、前回よりも項目を絞り、シンプルな表現に集約されたものとなっておりますが、年内の大綱策定を進める中で、今回の教育大綱（案）が最終段階とする必要があるものと捉え、今回提案させていただいたところでございます。

それでは、資料1をお願いします。

右側に、前回会議での主なご意見を掲載しているところでございます。

いくつか採り上げますと、一枠目の3行目、「互いに感謝し、支え合う」は「つながり合い、支え助け合う」のほうがよい。2枠目の3行目、③は文化芸術活動に限られるため、取り下げたほうがよい。3枠目の1行目、基本方針Ⅱには、確かな学力を入れてほしい。4枠目の2行目、はばたく人材の表現は苦しいものを感じる。

また、3枠目と4枠目の4行目及び5枠目の項目、インクルーシブ教育等については策であるので入れなくてよい。などのご意見をいただき、そのご指摘の項目を左側に朱書きにて提示しているところでございます。

さらに、右側の下段に「大綱全体について」とし、1行目にコミュニケーションが全てに関わる。2行目に社会適応能力が必要である。4行目に山鹿で学びたい、住んでみたいと思えるような内容を入れる。大綱の構成として、3行目、細かいことは書かずに大きなものを書けばよい。5行目、大綱はシンプルにし、取り組みは別に示す。6行目、番号を付すと序列ができるので、表記の仕方を検討する。

以上のようなご意見をいただき、その視点で修正させていただいたところでございます。

次に、資料2をお願いします。

左側には、資料1と同じ内容のものを掲載し、協議・検討により、右側へ移行、修正としています。なお、「策」に係る項目等については、ご覧のとおり削除しています。

	<p>また、左側の基本方針1、「ふるさと山鹿の創造」は方針の1つではなく、全体に係るものとして捉え、右側の基本理念、「つながり、支え合う“ふるさと山鹿の創造”」としています。したがって、右側のおり、基本方針を3本の柱とし、基本目標となる各項目について修正させていただいているところです。</p> <p>ご覧のとおり委員のご意見を基に、できるだけシンプルなものに整理を行い、特に基本方針の表記については、さらに端的にテンポよく韻を踏む表現とし、基本方針Ⅰを「ひと輝く」、Ⅱを「みらい彩る」、Ⅲを「きずな結ぶ」として、ひらがなと漢字の組み合わせは上段の方を考えているところです。</p> <p>このような協議経過を踏まえて、別紙「山鹿市教育大綱（案）」の最終段階としてまとめさせていただきました。</p> <p>「1 はじめに」として大綱の位置づけを記載し、「2 対象となる期間」は令和3年度から6年度までの4年間とします。「3 基本理念」を「古人（いにしへ）に学び、つながり、支え合う“ふるさと山鹿の創造”」と定め、その補足として、「長い歴史に培われた伝統・文化や市民の気質等を礎に、一人ひとりが思いやりをもって主体的に行動し、活力あふれる”ふるさと山鹿“を築いていきます。」としています。</p> <p>「4 基本方針」に、山鹿市総合計画を基本としつつ、3つの基本方針と重点基本目標を掲げているところです。</p> <p>別紙の基本方針及び基本目標の資料をお願いします。</p> <p>3つの基本方針につきましては、未来への広がり、発展性を踏まえて、先ほど協議経過で説明致しましたⅡとⅢを入れ替え、「Ⅰひと輝く」、「Ⅱきずな結ぶ」、「Ⅲみらい彩る」としています。また、基本目標につきましては、順序や表現に配慮した上で、番号を付さずに各3項目に集約し、ご覧のとおり整理させていただいているところでございます。</p> <p>以上、長くなりましたが説明は以上でございます。よろしくご検討方お願いいたします。</p>
早田市長	それでは、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。
野口委員	<p>これまでの意見を入れていただき、すっきりしたと思いますが、気になるところが3点ほどありました。</p> <p>1 点目に、基本理念の説明文についてです。「一人ひとりが思いやりをもって主体的に行動し」というところは、少し説明が不足していると思います。この基本理念のつながり、支えあうというところは、自分の事として考えていただきたいという気持ちがありますので、例えば「一人ひとりが地域を担う当事者として自ら行動し、つながり、支えあって」とするとイメージが湧くのではないかと思います。</p> <p>ただ、当事者という言葉が固いので、何か他の言葉がないか考えてみたのですが、思い浮かびませんでした。要は、自分事として、自分がするということの説明を入れていただきたいと思いました。</p> <p>2 点目に、基本方針が3つあって、その説明文について2番目だけが漢字だけ並んで他の文と違うように感じました。ここをもう少し柔らかい言葉に変えたほうがいいと思います。基本目標は3つありますので、欲張ると全部入れなくてはいけなくなりますが、平たく言いますと、子育て云々がありますので、例えば、「学びの成長を支え、学びを軸につながりを広げる生涯教育の向上を目指します。」</p>

	<p>或いは、ふるさと山鹿について山鹿学の話をするのであれば、「地域を学びあい」等とするのか。柔らかく入れられないかと思いました。</p> <p>3点目に、基本方針ⅢのSDGsの推進というところです。こういう言い方をしていることでもあります。例えば、「SDGsの達成に向けた実践力」又は「SDGsの達成に向けた行動を起こす力」に変えたほうがいいと思いました。</p> <p>SDGsの推進だけではなくて、それを理解して達成のために自分の事として行動できる、そういう力を育成するとした方が分かりやすいと思いました。</p>
早田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にございませんか。</p>
佐藤教育総務課長	<p>さきほど、本会議につきましては、最終段階ということでご説明させていただきました。市長の方からできるだけ決定の運びとなるならとご挨拶をいただいたところです。そこで、今回は各委員のご意見を言葉で示されても、なかなかまとまりがつかない形になる可能性がありますので、前もって各委員さん方から電話連絡にて今回の案についてのご意見、ご指摘事項について伺っていたところです。</p> <p>大きなご指摘としましては、野口委員が言われた内容について検討させていただいて市長、教育長にもお諮りいただいてご意見を伺ったところです。その旨、紙面により案として資料を作成しておりますので、配布させていただいてよろしいでしょうか。</p>
早田市長	<p>はい。資料の配布をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>ただいま配布させていただいた資料につきましては、他の委員方からもご指摘があるかと思いますが、大きなご指摘事項としましては野口委員がおっしゃった内容で、まず基本理念の補足説明について案1として朱書きにて「地域を担う当事者として自ら行動し、つながり、支えあって」とご指摘をいただいております。これにつきまして、先ほど申しましたとおり市長、教育長との協議の中で、案2ですが、「つながり、支えあって」を「つながり、未来に向かって」としてはどうかと案をいただいている状況です。</p> <p>次に、基本方針Ⅱ「きずな結ぶ」の補足文について、案1として先程の「学びの成長を支え、学びを軸につながりを広げる生涯教育の向上を目指します。」というご指摘をいただいているところです。同様に案2としては、「学びを支え、学びを軸につながりを広げる生涯教育の向上を目指します。」という案を提案させていただいております。</p> <p>次に、基本方針Ⅲの「みらい彩る」のSDGsの推進について、「SDGsの達成に向けた実践力の育成」と「SDGsの達成に向けた行動を起こす力の育成」とご意見をいただいているところです。</p> <p>以上、紙面に落としたほうが検討しやすいということで配布させていただきました。その他につきましてもご意見がございましたら、お願いいたします。</p>
早田市長	<p>別紙で配布させていただきましたが、これも踏まえて他のご意見でも構いませんのでよろしくをお願いします。</p>
野中委員	<p>前回に比べて非常にすっきりして、魅力的な括りになったと思いました。一般の方が見るわけですから、その点はいいいと思います。</p> <p>文言の使い方でご覧になったところが幾つかありました。一番気になっているの</p>

	<p>は、基本施策Ⅱの生涯教育という言葉です。あえて生涯学習を使わずに生涯教育としているのは、概念の問題もあります。文科省の流れから言っても生涯学習という言葉です。過去に生涯教育ということもありましたが、現在では生涯学習を支援したりするような立場から捉えて生涯教育を考えるので、生涯教育という言葉を使わず、生涯学習でいこうとなっています。あえて使うのであれば、そこに意図がなければなりません。ですが、基本目標に学校・家庭・地域が連携とありますので、生涯学習のことを言っていると思います。また、野口委員が言われたように前語りの部分も気になりました。行政的には生涯教育という言葉は使わないほうがいいと思います。混乱を招くと思います。それこそ更に説明を加えなければならないと思います。</p> <p>次に、「1はじめに」の部分で、最下段の「根本となる方針の部分で大綱として」とありますが、「根本となる方針を大綱として」でいいかと思います。</p> <p>次に、基本理念ですが、補足文の「市民の気質等を礎に」とありますが、そこに説明として「良き気質」や「望ましい気質」ではどうかと思いました。気質だけで言いますと、山鹿の持っている拙い部分があります。ゆったりしすぎる等、それもひっくり返せば良いところではありますが、良き気質や望ましい気質とすれば礎にしていいと思いました。</p> <p>次に、基本方針Ⅲの人材という言葉がどうしても気になります。誰にとっての人材なのかという感じがしてしまいます。人間という意味で使われているとは思いますが、主体的に行動する人の育成や人間の育成にすると硬い感じになるからなのか、一般的な人材の育成となってしまうのかと思いながら、山鹿の人を育てると言われていますので、「やまがびとの育成」等にならないかと思いました。</p> <p>同様に、言葉の問題ですが、「社会の変化に適応する」ということは、生き物が何かの変化に適応するということは、それに合わせていくわけです。そこから先の発展が感じられないので、「社会の変化に対応する」とした方がいいと思います。</p> <p>「グローバル化に対応できるコミュニケーションの育成」についても、何を想定しているのか。グローバル化に対応できるというよりも「豊かなコミュニケーション能力の育成」の方が良いと思いました。グローバル化についてはSDGsでカバーされていると思います。</p>
早田市長	生涯教育と生涯学習について事務局から何かありますか。
佐藤教育総務課長	通常は生涯学習という表記が妥当な在り方だと思っています。今回の大綱策定においては、あえて生涯教育という形で入れさせていただいています。生涯学習となるとそのポイントだけというイメージがありましたので、包括したイメージとして教育の展開をということで生涯教育としています。部内で協議した中でも、このような使い方もあるという確認を基に入れておりますが、委員の皆様からご意見をいただいた中で、必要であれば修正されてもいいと思います。
野中委員	平成2年に生涯学習振興法が制定されています。その中で生涯学習という言葉が、いわゆる市民権を得ているわけです。生涯教育というものは随分前に、国際会議等でも使われたことがあります。国内では生涯学習なのか生涯教育なのかどこで折り合いがついたかということ、生涯教育とは生涯学習を振興するために行政が仕組みの中でどうやって教育を進めていくかという立場から生涯学習の振興や推進

	<p>という言葉で置き換えられるため、生涯学習という言葉で進めていこうとなって、平成 2 年に生涯学習振興法という法律が制定されているという流れがあるようです。</p> <p>ですから、あえて生涯教育という昔の概念をここに入れるということは、外に出すものでもあるので変えた方がいいと思います。</p>
早田市長	生涯教育と生涯学習について他の委員さんはどうでしょうか。
上田委員	4 基本方針の説明文にも生涯学習と出てきますので、学習で統一した方がいいと思います。
早田市長	他の委員もよろしいでしょうか。
教育長、 委員一同	はい。
早田市長	<p>それでは、生涯教育については、生涯学習に変更いたします。</p> <p>野中委員のご指摘に対して他の委員さん方から何かありますか。そこまで大きく変わるものではないので、そのままで良いとは思いますが、いかがでしょうか。</p>
野中委員	基本目標Ⅲの「人材の育成」は「やまがびとの育成」にしませんか。
早田市長	他の委員さん方はどうでしょうか。
野中委員	かえって、やまがびととは何かとなりますかね。
野口委員	人の育成でもいいのですが、リズムがどうかと思います。
早田市長	元々は昔の装飾古墳を作った地域の人たちの奇抜な発想と言いますか、そういうことがみらいを彩り、奇抜なことがやまがびとということですか。
野中委員	むしろ「やまがびと」として、やまがびとに求める良き気質、装飾古墳の斬新なやまがびとは、こういうものであると出してもおもしろいと思います。
堀田教育長	立山委員が襲名されているのはやまがびとですか。
立山委員	やまがびとです。
堀田教育長	ただ、限られています。今、やまがびとは何人いますか。
大林総務部 長	取材は 4 人あっています。企画案の中で、山鹿で活躍されている地元出身の方等に限定して、やまがびととしてスポットライトを当てているということですか。
野中委員	こちらで先行してしまうと見えなくなりますね。
早田市長	それでは、人材の育成でよろしいでしょうか。
教育長、 委員一同	はい。
早田市長	他にご意見はありませんか。
上田委員	<p>全体的に整理されてすっきりしたと思います。基本方針も三項目になって、見る方も見やすく、取り組む方も取り組みやすいと思います。</p> <p>基本理念については、何となく狭い感じがしましたが、補足説明で長い歴史に培われた伝統・文化や市民の気質等を礎にとありますので、こういうことなのかということがわかるようになりました。ただ、気質等は野中委員が言われたように、良き気質とした方がいいと説明を聞いて思いました。補足文の案 1、2 については、先程、申し上げたとおり山鹿の枠に入り込んだ気がしましたので、案 2 の未来に向かっての方がいいと思いました。</p> <p>基本方針Ⅲの基本目標の「社会の変化に適応し」は「社会の変化に対応し」が良</p>

	<p>いと思ひました。</p> <p>野口委員が言われましたSDG sについては、SDG sの推進だけで終わっていませんので、先程言われたように直した方がいいと思ひます。案を見比べた場合、長い文章よりすっきりした方がいいので、達成に向けた実践力の育成にした方が取り組みやすいと思ひました。</p> <p>グローバル化に対応できるということは、世界にはばたくという意味もあると思ひますが、「豊かな」とするか「グローバル化」とするかは検討していただきたいと思ひます。</p> <p>第2次山鹿市総合計画との関連性をみていますと、それを生かして連携した取り組みになっていると思ひました。</p> <p>持続可能な社会の担い手づくりで大切にしていることは、関わるということと、つながるということです。資料2を見ますと、かなりその部分を押さえてまとめてあるので、良いものができていると思ひました。</p>
早田市長	<p>いろいろご意見がありました。</p> <p>基本理念の補足文について、「気質等」を「良き気質等」へ変えた方がいいというご意見について何かありますか。</p>
野口委員	<p>気質等ではっきりしないかも知れませんが、市長がこれまで山鹿創生とはということですって言ってこられた言葉ですので変えない方がいいと思ひます。</p>
堀田教育長	<p>最終的には市長が判断されますが、事前に委員の皆様のご意見をお聞きして、検討する中で私は基本理念案2の「地域を担う当事者として自ら行動し、つながり、未来に向かって」のほうがいいと思ひました。</p> <p>基本方針Ⅱについては、案2がすっきりしていいかと思ひました。</p> <p>基本方針ⅢのSDG sについては、ESDの説明にもあったように公平性や力を合わせる、責任を持って等はこれまでもずっと教育してきています。何も新たにということではなく、本当に行動していないからこういうことが出てくるのだと思ひます。ですので、「達成に向けた行動を起こす力の育成」はいい言葉だと思ひました。一人ひとりが行動できているのかが問われていますので、行動を起こす力ということが良いと思ひました。</p>
早田市長	<p>私としては案2が修正された最終段階と思っております、その中で委員の皆様からご指摘を受けたところがどうなのかということだと思ひます。大きな違いはないと思ひています。</p> <p>最初から見ていきますと、基本理念は案2でいきたいと思ひます。</p> <p>基本方針Ⅱのきずな結ぶについては、案2の方で「生涯教育」を「生涯学習」に変え、基本目標も「生涯教育」は「生涯学習」に変えたいと思ひます。</p> <p>基本方針Ⅲみらい彩るについては、基本目標のSDG sについては案1の「SDG sの達成に向けた行動を起こす力の育成」としたいと思ひます。</p>
野中委員	<p>基本方針Ⅲの基本目標で、「社会の変化に適應」は「社会の変化に対応」がいいと思ひます。</p>
早田市長	<p>適應より対応の方がいいというご意見が多いので、「社会の変化に対応し、未来を切り拓く力の育成」とします。</p>
野口委員	<p>そうであれば、最後の「グローバル化に対応できる」についても検討が必要です。</p>



	対応が続きますので、「豊かなコミュニケーション」でいいと思います。
堀田教育長	県もとにかく英語の力をつけ、中学3年生までに英検3級を取らせようと言っています。グローバル化に対応できる子どもたちをつくるように言ってきます。 日本語のコミュニケーションが一番大事ですが、県からはよく言われています。
田崎学校教育指導室長	グローバル化については、SDGsに入っていて重なりますので、「豊かな」でいいと思います。
早田市長	これに関係する私の思いとしては、例えば世界中どこに行っても、何人だろうと国境も関係なく人としてしっかり付き合いができる人になってもらいたいという思いがあります。
野中委員	この基本目標には、これからインバウンドが回復してきましたら、いろんな外国の方が山鹿にも来られます。その時に子どもたちが温かく迎えられたりする能力を入れてあるとは思いました。 今はコロナで閉ざされていますが、交流がもっと深まったときに、子どもたちの対人間の力を踏まえてあるとは思ったのですが、このような書き方をした時に何を想定してあるのか、想像しなければなりません。教育委員会として何をしようとしているのか、ちょっと見えにくいと思いました。かなり高度なものを求められている気がしました。
早田市長	語学能力というイメージですか。
野中委員	そういうふうに感じました。
野口委員	語学能力だけではなくて、コミュニケーション能力は今から本当に大事になってきます。ですので、広い意味でのコミュニケーション能力でいいと思います。 グローバル化にこだわらず、かえって「豊かな」のほうが広くなると思います。
堀田教育長	この教育大綱は山鹿市民に向けたものですが、今までの教育大綱は学校が中心でした。どこにでも掲示しましたが、大人の人がどれぐらい見ていたのか。 教育委員会が責任を持って、どう山鹿市民に広げていくのかが大事になります。
野中委員	反省点で一番大きなところがPRが足りないというところでした。
堀田教育長	今までもお金もかけて作って学校には掲示してありますが、いろんな会場等には掲示してありません。いつも言いますように、せっかく作ってもいかに徹底させるのか、いかに浸透させるかが大事だと思います。
早田市長	子どもたちへの教え方次第になりますね。 コミュニケーション能力は他の項目で関係するところはないですか。
上田委員	言葉ではありませんが、見てみますと全てにコミュニケーション能力が関わってきます。
早田市長	SDGsをしっかり理解していればグローバル化は必要ないので、しっかり浸透させなければならないということからも、「豊かなコミュニケーション能力の育成」とします。
堀田教育長	あいさつもコミュニケーションですね。日本一のあいさつ運動もしています。人と人の関わり合いの第一歩はあいさつからと言いますが、これもコミュニケーション能力の育成になります。
野中委員	「1 はじめに」の文で、「施策の根本となる方針の部分を大綱として」は「の部分」は削除して「施策の根本となる方針を大綱として」でいいと思います。

早田市長	そこは修正します。 他にご意見はございませんか。
立山委員	教育長の言われたように、どうやって発信していくかということで、タブレットのホーム画面に載せる等してはどうかと思いました。
早田市長	ありがとうございました。 それでは、本日修正した部分を事務局からお願いします。
徳永教育総務課企画係長	修正のあった部分について報告します。 「はじめに」の説明文最下段、「根本となる方針の部分を」について、「の部分」を削除し、「根本となる方針を大綱として」といたします。 次に、基本理念の補足説明文は案2の「地域を担う当事者として自ら行動し、つながり、未来に向かって」といたします。 次に、基本方針Ⅱの補足説明文については、案2の「学びを支え、学びを軸につながりを広げる」とし、補足文と基本目標の「生涯教育」は「生涯学習」に変更いたします。 次に、基本方針Ⅲの基本目標について、「社会の変化に適応し」を「社会の変化に対応し」に変更。「SDGsの推進」を「SDGsの達成に向けた行動を起こす力の育成」に変更。「グローバル化に対応できるコミュニケーション能力の育成」を「豊かなコミュニケーション能力の育成」に変更いたします。 以上です。
早田市長	修正について間違いなかったでしょうか。
教育長、委員一同	はい。
早田市長	それでは、この修正をもって本市の教育大綱とします。 本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。 以上で議事を終わります。
徳永教育総務課企画係長	本日の会議の全日程は終了いたしました。 これもちまして、令和3年度第3回山鹿市総合教育会議を終了します。